

# コナジラミ類情報第1号（トマト）

令和5年8月18日  
愛知県農業総合試験場  
環境基盤研究部病害虫防除室

## 育苗中、定植前のコナジラミ防除を徹底しましょう。

### 1 発生状況及び今後の発生予測

前作（4月下旬）に行った巡回調査（12ほ場調査）において、コナジラミ成虫の寄生枝率が22.2%（平年4.2%、前年5.6%）で過去10年と比較して最も高い状況でした。また、露地野菜において、コナジラミが多発している地域が確認されています。

名古屋地方气象台8月17日発表の1か月予報によれば、向こう1か月の気温は高いと見込まれており、本種の発生に好適な状況が続く可能性があります。ほ場での発生状況に注意しましょう。

### 2 防除対策

（1）施設内への苗によるコナジラミの持ち込みを防ぐため、表を参考に、育苗中、定植前の薬剤防除を徹底しましょう。

（2）施設内への侵入を防ぐため、開口部に防虫ネット（目合い0.4mm以下）を展張しましょう。設置してあるハウスについても、被覆ビニルや防虫ネットに破損や隙間が無いか点検し、必要に応じて補修しましょう。

（3）黄色粘着板や黄色粘着テープを施設内や周辺部に設置し、成虫を捕殺しましょう。

（4）薬剤抵抗性の発達を防ぐため、IRACコードが同じ薬剤を連続して使用することは避けましょう。また、薬剤抵抗性の発生リスクが低い気門封鎖剤等を活用しましょう。

（5）花粉交配用昆虫を利用する場合は、**影響日数に注意**して農薬を選定しましょう。

（6）タバココナジラミ（図1）はトマト黄化葉巻病（図2）の病原ウイルスを、コナジラミ類はトマト黄化病の病原ウイルスを媒介します。ウイルスの感染株は見つけ次第抜き取り、適切に処分しましょう。トマト黄化葉巻病については、耐病性品種であっても感染源となり得るため、感受性品種と同様にコナジラミ類の防除を行いましょう。



図1 タバココナジラミ（左：幼虫、右：成虫）



図2 トマト黄化葉巻病の発病株

表 トマトにおけるコナジラミ類の主な防除薬剤

農薬名	使用時期	使用回数	IRAC コード
ベストガード粒剤	育苗期、定植時	定植時までに1回以内	4A
スタークル粒剤	育苗期、定植時	育苗期・定植時各1回	4A
アルバリン粒剤	育苗期、定植時	育苗期・定植時各1回	4A
ベリマークSC	育苗期後半～定植当日	1回	28
アグリメック <sup>※2</sup>	収穫前日まで	3回以内	6
アニキ乳剤 <sup>※1</sup>	収穫前日まで	3回以内	6
コルト顆粒水和剤	収穫前日まで	3回以内	9B
ベネビアOD <sup>※1</sup>	収穫前日まで	3回以内	28
トランスフォームフロアブル <sup>※1</sup>	収穫前日まで	2回以内	4C
ディアナSC <sup>※1</sup>	収穫前日まで	2回以内	5
グレーシア乳剤 <sup>※1</sup>	収穫前日まで	2回以内	30
サフオイル乳剤	収穫前日まで	—	未（気門封鎖） <sup>※3</sup>
サンクリスタル乳剤	収穫前日まで	—	未（気門封鎖） <sup>※3</sup>
ベミデタッチ <sup>※4</sup>	収穫前日まで	—	UNE(成虫忌避)

花粉交配用昆虫に影響がある剤が含まれるので注意すること。

※1 成虫に対して感受性が低下している事例があるため注意すること。

※2 ミニトマトに未登録

※3 気門封鎖剤は、散布液がコナジラミ類に直接かかると効果がないため、丁寧に散布しましょう。

※4 ベミデタッチは、殺虫効果はなく忌避効果が主体です。7日間隔で複数回散布する必要があります。

IRAC コードは殺虫剤の作用機構による分類を示す。

IRAC コードの詳細は、[https://www.jcpa.or.jp/assets/file/labo/mechanism/mechanism\\_irac03.pdf](https://www.jcpa.or.jp/assets/file/labo/mechanism/mechanism_irac03.pdf)を参照する。

農薬の散布に当たっては、ラベルの表示事項を守るとともに、他の作物や周辺環境への飛散防止に努めましょう。